



目次 contents

- P1 ■令和6年度定期総会開催報告
・会長あいさつ
・永年表彰
- P2 ■共助事例発表会
- P3 ■市町村コミュニティ協議会の取組
- P4 ■会員紹介

令和6年度定期総会開催報告

令和6年6月14日(金)に定期総会を開催しました。永年表彰や共助事例発表会が行われたほか、事業報告や事業計画等の審議を行い原案のとおり承認されました。

会長（大野 元裕 埼玉県知事）あいさつ



彩の国コミュニティ協議会会長
埼玉県知事 大野 元裕

本日表彰を受けられる皆様誠におめでとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症もあり、皆様には多大な御協力をいただき、そして御不便をおかけして参りました。

平素からまちの美化、あるいは防災、多様な分野にわたりまして、皆様におかれましては、様々な形で御協力いただいていることに心から感謝を申し上げます。

このコロナ禍も一段落をして、令和4年度には、コミュニティ協議会のコミュニティ活動に御参加をいただいた皆様も、46万人まで落ち込んでいましたが、令和5年度には62万人と、コロナ禍前のレベルまで戻りつつあります。

大きな課題、歴史的な挑戦に直面をしている埼玉県であればこそ、引き続き皆様のお力添えが必要と考えています。

特にその中でも、災害、あるいはパンデミックといった、激甚化、頻発化する危機対応、さらには、人口減少、少子高齢化という中で、コミュニティ、地域の力というものは極めて重要です。

これから引き続き、埼玉県が持続的な発展を遂げていくために、皆様のお力がこれまで以上に必要になってくると考えています。

改めて皆様の御協力をお願い申し上げますとともに、本日御参加いただきましたそれぞれの団体、そして個人の皆様のますますの御隆盛、御活躍を祈念申し上げ、私からの冒頭の御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



▲総会当日の様子

永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された2名の方に対し、表彰を行いました。総会当日、会長（大野 元裕 知事）から表彰状と記念品のフォトスタンドが授与されました。



▲富岡氏と大野会長



▲西田氏と大野会長

【受賞者】

富岡 進氏
(和光市コミュニティ協議会)

西田 幸子氏
(八潮市コミュニティ協議会)



彩の国コミュニティ協議会 令和6年度共助事例発表会

共助の取組や手法を共有し、県内全域で「共助社会づくり」に取り組めるよう、共助事例発表会を開催しました。



「パパと地域のななめな関係」

NPO法人グリーンパパプロジェクト 代表理事
吉田 大樹 氏

NPO法人グリーンパパプロジェクトについて

パパたちが地域へ一歩踏み出すきっかけづくりとして、農体験や自然体験などを絡めながら、パパたちに押しつけがましくない変革をしてもらいたい、という思いからグリーンパパプロジェクトを作りました。

「グリーンパパプロジェクト」は、農(食)、林、旅などの「グリーン」を通じて、パパと家族の新しいライフスタイルを提案し、都市部のパパたちがもっと地方(地域)に関心を持つことを目指したソーシャルプロジェクトです。

主な事業としては、農業体験や自然体験などの合宿事業、記事の発信等の周知活動、農体験イベントや実践的パパ向け講座、働き方改革講座等のイベント・講座を開催しています。また事業の柱となっているのが、子育て支援事業として行っている放課後児童クラブの運営です。放課後児童クラブでは、保護者と密にコミュニケーションを取ることで、どのような支援が適しているのかを把握することができました。地域の子どもと大人が関われる重要な場づくりができたと感じています。



▲NPO法人グリーンパパプロジェクト 代表理事 吉田 大樹 氏



▲放課後児童クラブ

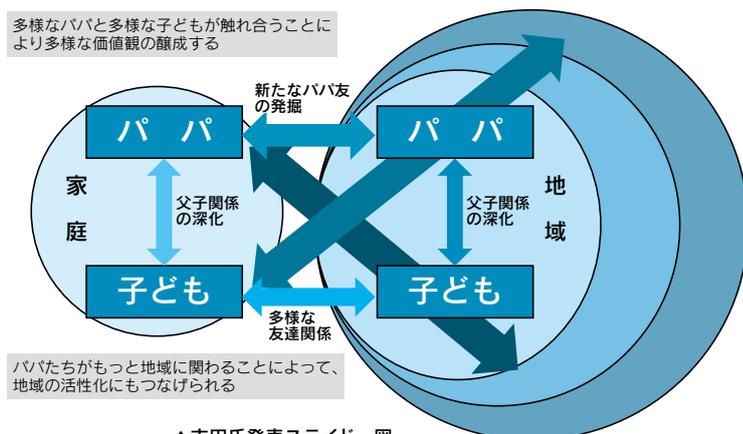
「男だから」はハードルになるか

テーマとして自分の中にずっとあるのが、「男だから」というのはハードルになるか、ということです。子育てをしていく中で、女性だからこれをやる、男性だからこれはやらなくていいとか、そういうことではなく、とりあえず何でもできることをやっていこう、とらえていこう、という気持ちが大事だと実感しました。自分がシングルファーザーになってから、同じ夕食を月に二度出さないように工夫したり、子どもの小学校の入学時に巾着袋を作ったりしながら、家事を楽しむ意識を持つことで、親としての張り合いが出ることもありました。どの役割でも男性女性関係ないのではないかと感じていて、自分の経験をもっと多くの人に知ってもらいながら、そのような意識を持つ男性を増やしていきたいと考えています。地域の中の役割にも同じことが言えるのではないのでしょうか。

パパと地域のななめな関係とは？

関係性を図に表しました。今まで、左の丸で表している「家庭」の中で、パパと子どもの関係を作っていくということが注目されてきたと思います。しかし、自分の子どもを育てるという感覚だけではなく、右丸の「地域」の子どもを育て合うという関係性をいかにつくっていくかが非常に重要であると、活動をしながら感じています。

だからこそ、「ななめ」なんです。自分の子どもだけではなく、他の子の面倒を見たり、一緒に遊んだり、そのような機会を作っていくことが今後求められていこうと思います。そして、このななめの関係を作るのが大事であるということに気づいてくれるパパたちを増やしていきたいと考えています。残念ながら今のところ、子育て支援の団体にパパが少ないと感じます。左から右の丸に移っていくツールは色々あると思いますので、地域の誰もが役割意識にとらわれず活動していけば、地域の中で子育てができるパパが増えるのではないのでしょうか。



▲吉田氏発表スライド 図

現代パパが抱える問題

男性の育児休業取得率が女性に比べると低いことや家事や子育てに費やす時間が女性より男性の方が少ないことなど、パパが子育てをする上で抱える問題は様々ですが、パパたちがもう少し子育てや家事を、地域との関わりを含めて入っていくことが大切です。また、現在は障害をもっている方や高齢者、介護が必要な方や外国の方も増えています。長時間労働が当たり前の男性型の働き方が終焉し、「制約がある」人たちが協力し合いながらよりよい社会をつくっていかう、という意識を持つ必要があります。そういう意味では、多様性と包摂、ダイバーシティ&インクルージョンを意識していくことも大切だと思います。



▲共助事例発表会の様子

市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う事業に対して助成をしています。今年度の助成事業について、一部御紹介します。



コミュニティ懇話会（富士見市コミュニティ協議会）

富士見市コミュニティ協議会は、地域コミュニティの活性化を図り、温かく住みよい地域社会を築き上げることを目指して活動しています。今回、9月3日に市民福祉活動センターぱれっとにてコミュニティ懇話会を開催しました。過去にシラコバト賞を受賞されたふじみギターフレンズ前会長の簀戸長太郎氏をお招きし、活動のきっかけや内容、活動を続ける秘訣についてお話をいただきました。

約40年間活動を続けることができたのは、良い指導者に恵まれ、協力してくれる仲間がいたこと、また、地域社会にとびこむことで人生が豊かになるとアドバイスをいただきました。

今後も富士見ふるさと祭りでの花いっぱい運動や東入間防犯・暴力排除年末街頭キャンペーンを通して地域コミュニティの活性化を目指したいと考えております。



▲簀戸 長太郎 氏



▲コミュニティ懇話会当日の様子



全市一斉清掃（本庄市コミュニティ協議会）

環境美化運動とコミュニティ活動の推進を深める住民全体の事業として1982年から始めた活動で、「ごみゼロ」の合言葉と共に毎年5月の最終週の土日に実施しています。

今年も自治会、幼稚園、保育園、学校、事業所、各種団体の31,000人のご参加をいただき、可燃ごみ14,000kg、不燃ごみ560kgを回収し、人通りの少ない道路周辺や普段なかなか清掃ができない場所、街路樹の雑草などが大変きれいになりました。

全市一斉清掃は隣近所の人達とコミュニケーションをとりながら、共に街をきれいにする活動として市民に定着しておりますが、今後も活動を通じて繋がりをより強固なものにしていきたいと思っております。



▲住民が清掃をする様子



コバトン

クリーンで美しいまちづくり事業（蓮田市コミュニティづくり推進協議会）

蓮田市コミュニティづくり推進協議会は、市内の19団体から選出された24名の理事で構成されており、地域で共に支え合う共助社会づくりと心のふれあう豊かな住み良いコミュニティづくりに貢献するため、年間を通して様々な活動を行っております。

活動の1つとして、花いっぱい運動を実施しております。蓮田駅と蓮田市役所に、春にはポーチユラカ、秋にはパンジーを植え、年間を通して水やりなどの管理を行っております。

きれいな花で人の心を和ませるだけでなく、花壇やプランターに交通安全の看板を設置することで、交通安全の啓発も行っております。

令和6年度の春の花植えでは約30名が参加し、蓮田駅に540株、蓮田市役所には60株のポーチユラカを植えました。

花いっぱい運動を通して、市の理念であります安心・安全に生活できるまちづくり、当会の目的の1つであります住みよいふるさとをつくる活動に取り組んでまいります。



▲蓮田駅での花植え作業



松田産業株式会社

当社グループは「限りある地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献する」ことを企業理念に据え、限りある資源である貴金属をリサイクルして有効活用を図る貴金属事業、きれいな環境を次世代に引き継ぐ環境事業を総合した「貴金属関連事業」と、地球の豊かな恵みである食資源を安定的に供給し人の豊かさに繋げる「食品関連事業」を柱に、持続的成長に向けて取り組んでいます。

当社は36年以上に渡り、入間市内にある障がい者就労支援施設の「虹の里」様や「おおり」様に業務の一部を委託しており、これら福祉への貢献活動に対し、埼玉県から「障害者就労施設プレミアムパートナー企業」に認定されています。また、入間市が開催する市民清掃デーの趣旨に賛同し、毎年各工場周辺の清掃活動を実施し、最近では、入間市ゼロ・カーボン協会に参画し、温室効果ガスの削減に向けて入間市と共同で活動を進めています。今後も福祉及び地域貢献活動を推進していきます。



▲松田産業(株)武蔵第三工場



▲入間市内周辺事業所の清掃活動

埼玉県更生保護女性連盟

私たちは、昭和26年5月「小さな奉仕の会」を設立以来、平成16年5月に埼玉県更生保護女性連盟と名称を変更し、令和3年3月には「結成70周年」を迎えました。

私たちは、日本更生保護女性連盟、関東地方更生保護女性連盟の下、法務省の関係機関、保護観察所、保護司会、BBS会等と連携し、更生保護活動、社会を明るくする運動、青少年健全育成、更生保護施設や矯正施設への支援活動等に取り組んでいます。

また、会員4,511人(46地区)と研鑽を積み、「支え合い、地域とつながり、地域につなげる」をモットーに、関係機関・行政・地域等と連携して各地区の特色を生かし、「子ども食堂」、「居場所づくり」、「子育て支援」など皆様に寄り添った活動を実施しております。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



▲70周年記念事業



▲北本地区 子ども食堂
お料理の準備の様子



▲社会を明るくする運動の様子

埼玉県生活協同組合連合会

埼玉県生活協同組合連合会は14の生協が加盟する生協の連合会です。

埼玉県生協連は1972年に設立されました。現在、14の生協は、宅配、店舗、医療、介護、共済、住宅、大学などの事業で、のべ234万人の組合員のくらしを支えています。また、助け合いの組織として、生活支援や子育て支援、食育、フードドライブ、環境、防災・減災、消費者啓発など多様な取り組みを行っています。

国連が2025年を2回目の「国際協同組成年」と決めました。埼玉県生協連は、14の生協とともに、「安心してくらし続けられる地域(埼玉)」と「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向けて、行政・諸団体の皆様と連携をさらに深め、より一層努力してまいります。



▲九都都市合同防災訓練で救援物資配布訓練などに参加した様子



▲「多主体協働による地域社会づくり」についての講演会